

講義名	オ)医療経済論		
担当教員	中島 孝子		
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 1時限	授業形態	講義
履修開始年次	3年生	単位数	2
備考			

主題と概要

本科目では公的医療保険制度の仕組みに注目して、医療経済学におけるトピックを学習します。すなわち、医療保険制度としての保険に関する問題について学習します。はじめに医療サービスの特徴について学び、次いで、日本の医療制度と国民医療費の推移を概観します。さらに医療サービスの需要と保険について理解したあと、保険の特徴をいくつかの側面から考えます。最後に医療制度の国際比較をします。

到達目標

- ・医療経済論での学びを通じて、以下のトピックについて、現実採用されている制度、理論的問題および実証研究の結果などについて理解できるようになる。
日本の医療制度と国民医療費
医療サービスの経済学的特徴
保険の仕組みと公的医療保険
医療制度の国際比較
- ・目標 - に沿って学びを通じ、医療制度やその経済的意義を理解し、医療制度が持つ社会的な課題を発見することができるようになる。
- ・目標 - に関する学びを通じ、日本および世界の医療制度の長所短所などの特徴を理解し、日本の制度について課題を発見し解決する手がかりを得ることができるようになる。

提出課題

提出課題として小テストと課題を課します。詳細は授業中に指示します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

課題提出後、解説や講評を行います。

評価の基準

成績は100点満点で評価し60点以上が合格です。
配分は定期試験（または最終課題）70%、平常点（小テストなど）30%です。
昨年は履修登録者の81%が最終課題を提出し、その95%が合格しました。

定期試験にかえて課題を課することがあります。
詳細は授業時に指示または講義連絡等で通知します。

履修にあたっての注意・助言他

経済学の入門レベルの科目を修得していることが望まれます。

教科書	.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

必要に応じて資料を配布します。以下は、本科目の履修において有用な文献です。
 漆博雄「医療経済学」東京大学出版会 1998年
 池上昌司「医療・介護問題を読み解く」日経文庫 2014年
 河口洋行「医療の経済学（第3版）」日本評論社 2015年
 橋本英樹・泉田信行編「医療経済学講義 補訂版」東京大学出版会 2016年
 細谷圭・増原宏明・林行成「医療経済学15講」新世社 2016年

授業計画

- 1 医療サービスとは(1) 医療サービスの特徴1(サービスとしての医療)
- 2 医療サービスとは(2) 医療サービスの特徴2(不確実性、情報と主体)
- 3 医療サービスとは(3) 医療サービスの特徴3(公共性、競合性と排他性、外部性)
- 4 医療サービスとは(4) 医療市場の特徴、グロスマンモデル
- 5 国民医療費・介護費用の動向(1) 医療保険制度、国民医療費、高齢化、対国民所得比
- 6 国民医療費・介護費用の動向(2) 伸び率、医療費はどこまで増やせるか、医療費と介護費
- 7 医療サービスの需要(1) 需要の不確実性と保険1 保険原理
- 8 医療サービスの需要(2) 需要の不確実性と保険2 保険加入のインセンティブ
- 9 医療サービスの需要(3) 情報の非対称性、逆選択問題
- 10 医療サービスの需要(4) 国民皆保険、モラル・ハザード問題
- 11 医療制度の国際比較(1) 医療保険制度の類型1 社会保険方式
- 12 医療制度の国際比較(2) 医療保険制度の類型2 NIS方式と私的保険方式
- 13 医療提供体制(1) 医療の機能分化
- 14 医療提供体制(2) 病院の分類、病床区分
- 15 全体まとめと復習

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業後、復習をしてください。1回あたり4時間が目安です。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目における学びを通じ、人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察し、課題を提案することができるようになる。具体的には次の2点である。
 ・医療制度やその経済的意義を理解し、医療制度が持つ社会的な課題を発見する。
 ・日本および世界の医療制度の長所短所などの特徴を理解し、日本の制度について課題を発見し解決する手がかりを得る。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業中のアンケートや、小テストの提出などにレスポンスを使用します。

実務経験の有無及び活用

備考

- ・対面授業において一時的に通学困難になった場合は、対面授業の中での対応（オンデマンド授業へ移動はしない）とする。